

## 編集後記

2020 年度も例年通り文教大学付属生活科学研究所紀要を刊行することとなり、「生活科学研究」第 43 集には、12 編の論文と 2 編の研究ノートの計 14 編を掲載することができました。今年度も多くのご投稿をいただき、執筆者の方々ならびに本誌の作成に携わってくださった皆様に深く感謝申し上げます。

生活科学研究所に関わる大きな変化としては、本年度より「生活科学研究」への投稿を web 上の論文投稿システムを用いて行うことが可能になったことが挙げられます。さらには、研究員等の登録も web 上のシステムで行うことができるようになりました。実際のところは、両システムともにまだ改良の余地があり、皆様にご迷惑をお掛けすることもある状況ですが、今後はより一層、論文投稿や研究員登録がスムーズにできますよう努めてまいりたいと思っております。

さて 2020 年といえば、新型コロナウイルスの流行が始まった年として歴史に残ることと思います。2021 年 1 月 31 日現在、日本の累計感染者数 389,830 人、死亡者数 5,752 人、世界では一億人を越える方が罹患したと報道されています。現在、病に苦しんでいらっしゃる方に心からお見舞い申し上げますとともに、不幸にもお亡くなりになった方、またそのご家族の方に深くお悔やみ申し上げます。

生活科学研究所でも、感染予防のため 11 月の公開講座、12 月の研究報告会、月に 1 度程度行っている定例会も、2020 年度はすべて web 上での開催となりました。これは前年度にはまったく考えられなかった事態です。緊急事態宣言の発令、外出の自粛、それに伴って仕事や教育のリモート化など、私たちの日常が大きく変化した 1 年でしたが、それらすべては生活に関わること、生活研究所で研究すべき事柄がさらに広がる兆しを見せたといえるかもしれません。「生活科学研究」にもこれまでは考えられなかった新しい論文が掲載されるようになるかもしれないと、本紀要の今後のさらなる発展を祈念しています。

生活科学研究所

研究部主任 鎌田 晶子